

川通信

おいしだ



国土交通省 東北地方整備局

新庄河川事務所 大石田出張所

第34号 平成23年6月

この度の東日本大震災により被災された地域の皆様に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復興をお祈りし、国土交通省としても災害復旧に全力を尽くしてまいります。

■堤防の工事が始まります!

工事期間は、平成23年3月～10月の予定です。

尾花沢市大向・大石田町鷹巣地内において、100年に一度（現況は20年に一度）の洪水に耐えられる堤防の断面を確保するための工事を行い、氾濫被害を軽減します。

工事期間中は、大変ご迷惑をお掛けしますが、皆様のご理解ご協力の程、宜しくお願い致します。

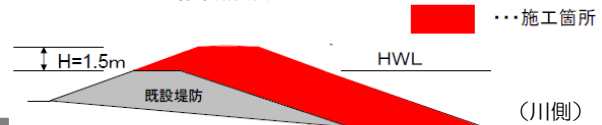
- 最上川中流 大向下流地区築堤工事
- 最上川中流 大向上流地区築堤工事
- 最上川中流 白鷺地区築堤工事

- 施工会社：株式会社 柿崎工務所（新庄市）
- 施工会社：株式会社 カキザキ（新庄市）
- 施工会社：株式会社 はながさ建設（尾花沢市）

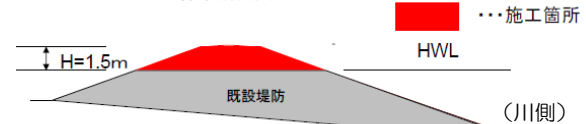


赤い部分の盛土を行います

大向地区築堤 標準断面図



白鷺地区築堤 標準断面図



※ HWL（計画高水位）とは
過去の大洪水（大正2年8月、昭和42年8月、昭和44年8月）
をもとに検討された最高水位です。

工事用ダンプが通います



堤防の盛土に使用する土砂を運搬するため、大型用ダンプが右図の路線を通ります。一日あたり約30台のダンプが、土取り場との間を循環し、延べ300台/日が通行予定です。ご迷惑をお掛けします。よろしくお願いします。

舟戸大橋は14トン以上通行できませんので、「土取り場」からダンプに土砂を積んで運び込む際は駒籠・大浦を経由します。空になったダンプは、舟戸大橋を通り「土取り場」へ戻ります。



通行許可書

最上川中流 白鷺地区築堤工事

1

株式会社 はながさ建設

がんばろう!東北

＝ 運搬車両の前面に、通行許可証を掲示します ＝

(株)はながさ建設



(株)カキザキ



(株)柿崎工務所



(会社ごと色別になります)

河川の管理費節減と資源有効利用、地域の皆様との協同の取組みとして、
支障木・刈草を無償で提供いたします。お問い合わせは、大石田出張所まで

木を伐採してくださった方に、 『伐採木』を無償でご提供します！

決められた区画ごとに伐採していただき、伐採木は無償で提供いたします。

「薪」「ほだ木(キノコ栽培用)」などにご活用ください！

● 河川敷の樹木を伐採する目的

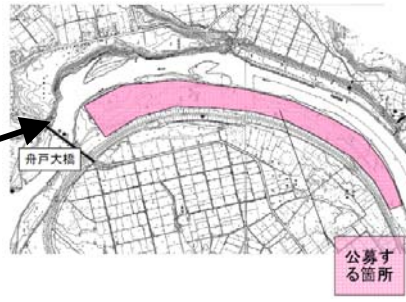
大きくなりすぎ、密生しすぎた河畔の樹木は

- ① 洪水時に川の流れを妨げたり、流出した木が橋や堰などに引っかかり洪水の被害を大きくする恐れがあるため
- ② 河川巡視時に視界をさえぎり、ゴミの不法投棄の発見が遅れるなど、河川管理の妨げとなることがあるため



● 伐採募集区画（区画はこちらで指定させていただきます）

大石田町白鷺地内他（最上川左岸側） 面積 約5,500m² 区画数 11 区間程度



最上川の『刈草』を無償でご提供します！

毎年、堤防等の除草により約70トンの刈草が発生し焼却処分をしておりますが、刈草を「堆肥の原料や敷料」「家畜の飼料」等にして、農作業や園芸等に使用してみたいはいかがでしょうか？

刈草の状態

- ① 極力自然乾燥に努めますが、湿っている場合もあります。
- ② 刈草は乾燥の頃合いをみて集草しますが、10日間以上経過したものは湿っていても集草します。
- ③ 乾燥できたものは「梱包」します。湿っているものは「そのまま」です。
- ④ 出来る限り注意を払いますが、ゴミ・堅い草などが混入している場合があります。

梱包(イメージ)



そのまま(イメージ)



刈草は、「梱包」や「そのまま」で配布を予定しています。

東日本大震災における支援活動

この度の大震災により、お亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

3月11日、東北地方太平洋沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、新庄河川事務所（以下 新庄河川）管内では、最大震度5強を観測しました。この地震により東北地方をはじめとする各地に甚大な被害が生じましたが、発災直後、多量の積雪のなか点検を行ったところ、**新庄河川管内の河川・砂防施設、土砂流出、地すべり等の被害、異常はありませんでした。**

東北地方整備局では、特に被害の大きかった岩手・宮城・福島県を中心に、震災直後から全国の整備局の支援を受け、国道や航路の交通網の確保、流出・沈下など被災した河川堤防や海岸の緊急復旧など、住民の安全確保のため、全力で取り組んでいます。

- （主な活動） ●「自治体・被災者支援」を本格的に実施 ●「くしの歯型」の救援ルートを確認
●全国の整備局の応援により排水ポンプ車・衛星通信車等を配備
●災害対策現地情報連絡員（リエゾン）を派遣 ●麻痺した自治体の通信を早急に確保

支援活動箇所(新庄河川事務所)

石巻市谷地中 ● 大川小学校
石巻市 ● 女川町
東松島市矢本 ●

● 名取市関上
仙谷空港
● 岩沼市新拓
● 亘理町荒浜
● 山元町山寺
● 山元町坂元

● 相馬市日下石
● 相馬市八沢

■ 災害対策現地情報連絡員
● 排水ポンプ車

発災翌日から被災地へ職員を派遣

新庄河川では、発災翌日(3月12日)から、被災地へ「リエゾン」(はし渡しの意)を派遣し、被害状況等の情報収集と関係機関との連絡調整を行いました。(派遣人数：6/3まで29班・延べ88人)

今回の災害は、被災地自治体の庁舎や通信施設、さらに職員に大きな打撃をもたらしており、持参した衛星携帯電話は、被災地域の重要な通信手段となりました。

また支援物資の提供・地震計の設置・地理院のオルソ地図提供、仮設住宅の適地検討および道路の冠水に関する対応など、技術面での支援も行いました。



打合せの様子(3月22日)
女川町職員(左)大石田出張所長(右)



被災状況(女川町)



支援物資

排水ポンプ車を派遣

280万m³を排水

災害対策車ステーション(大石田)からも出動しました

= 湛水区域の解消と行方不明者捜索に貢献 =

新庄河川では、津波により冠水した地域の排水のため、3月24日より宮城県石巻市・福島県相馬市等へ排水ポンプ車4台と照明車2台を派遣しました。また全国の整備局からも最大で192台を派遣し、24時間体制で排水作業を実施。5月28日までの排水量は280万m³(東京ドーム約2.3杯分)に達し、復旧作業及び行方不明者の捜索にも貢献しました。



排水作業の状況(4月9日 福島県相馬市にて)



排水作業後の捜索状況

忘れてはいけない過去の記憶・・・!

■ 洪水がおきやすい季節がやってきます

梅雨の季節がやってきます。豪雨により最上川や丹生川の水が増水し、洪水となることがあります。今年には豪雪だったため、融雪洪水がおきやすく、出水期には十分気を付けましょう。改めて過去の大洪水をふり返り、日頃の防災意識を高めておきましょう！

● 羽越水害 ● うえつすいがい

1967年（昭和42年）8月28日、早朝から置賜地方で降り出した雨は夕刻から翌未明にかけて激しさを増し、県内各地で河川の氾濫による被害を受けました。大石田町でも決壊した堤防から集落へ流れ込んだ最上川の水が、家屋や田んぼを次々に飲み込んでいきました。（下記写真）

今から44年前、山形県史上空前の大被害をもたらしたこの災害は、「羽越水害」とよばれています。

死者	8人
負傷者	137人
家屋の流失	167戸
床上浸水	10,818戸
床下浸水	11,066戸
農地等の浸水	13,180ha

その教訓を生かし、治水事業により大石田管内にいくつもの堤防が完成し、また上流には「寒河江ダム（西川町）」や「大久保遊水地（村山市）」が造られたことにより、洪水の被害は大幅に軽減されました。

平成9年6月の集中豪雨では、羽越水害に匹敵する出水が記録されましたが、治水事業の進展や各水防団の水防作業により、被害を少なく抑えることができました。

大石田町 家屋浸水被害

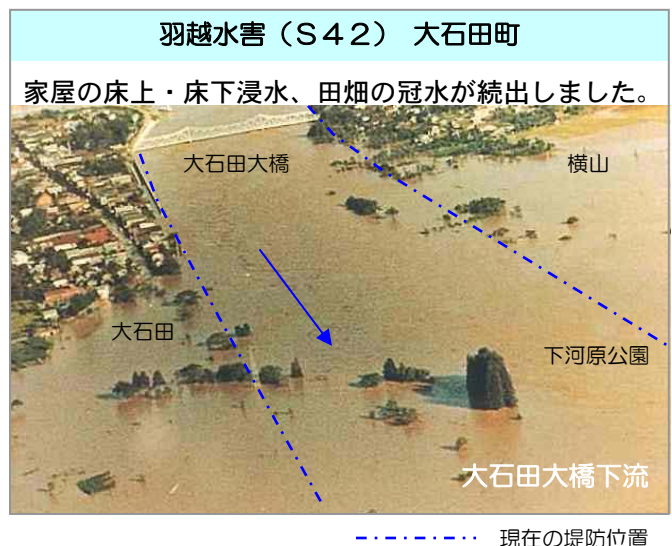
羽越水害（S42）856戸 → 集中豪雨（H9）9戸



大石田小学校のプール脇には、水害への注意を喚起するため、羽越水害の洪水位を示す「水位標」が建てられています。

「いざ！」というとき
どこへ逃げれば良いでしょうか？

みなさんの自治体で作成している
「洪水避難地図（ハザードマップ）」で
避難場所を確認しておきましょう！



河川に関するご意見を
どんどんお寄せ下さい

国土交通省 新庄河川事務所 大石田出張所 担当 工藤・鈴木

〒999-4113大石田町大字今宿字鷺の原466-2

TEL0237-35-2024 FAX0237-35-2354

<http://www.thr.mlit.go.jp/shinjyou>

